

平成15年度第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報

－別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所がとりまとめた結果－

今後の見通し（2003年10月～12月）

常磐～北海道東部までの北部太平洋海域における
スルメイカの来遊水準は2002年をやや上回る

2003年10月～12月の来遊見通し

- 常磐～三陸海域：2002年を下回る
魚体は25～27 cmが主体
- 大畑～北海道南部海域：2002年を上回る
魚体は24～26cmが主体
- 北海道東部海域：2002年を上回る
根室海峡周辺海域：2002年並
魚体は22～24cmが主体

1. 本予報は水産庁のホームページ (<http://www.jfa.maff.go.jp/>) 並びに水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ (<http://abchan.job.affrc.go.jp/>) に掲載されます。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。
水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当：竹葉・狭間
住所：〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
電話：03-3502-8111（内線7376） 03-3501-5098（直通）
ファックス：03-3592-0759
電子メール：toru_hazama@nm.maff.go.jp
水産総合研究センター 北海道区水産研究所 企画連絡室
住所：〒085-0802 北海道釧路市桂恋116番地
電話：0154-92-1701 0154-92-1715
ファックス：0154-91-9355
電子メール：kiren@hnf.affrc.go.jp

参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場	高知県水産試験場
北海道立函館水産試験場	(社) 漁業情報サービスセンター
青森県水産総合研究センター	水産庁漁場資源課
岩手県水産技術センター	独立行政法人水産総合研究センター
宮城県水産研究開発センター	北海道区水産研究所
福島県水産試験場	東北区水産研究所八戸支所
茨城県水産試験場	日本海区水産研究所
千葉県水産研究センター	中央水産研究所
神奈川県水産総合研究所	中央水産研究所黒潮研究部
静岡県水産試験場	
三重県科学技術振興センター	
和歌山県農林水産総合技術センター	

平成15年度第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2003年10～12月）

対象魚種：スルメイカ

予測海域：常磐～三陸海域、大畑～北海道南部海域、
北海道東部～根室海峡周辺海域

対象漁業：いか釣り、底曳き、定置網

対象系群：冬季発生系群（2003年級群）

魚体の大きさは外套背長で表示。

1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底曳き、定置網）

(1) 来遊量：2002年を下回る。

(2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場が形成される。

(3) 魚体：11月は25～27cmが主体。

2. 大畑～北海道南部海域（いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：2002年を上回る。

(2) 漁期・漁場：期間を通じて漁場が形成される。

(3) 魚体：11月は24～26cmが主体。

3. 北海道東部～根室海峡周辺海域（いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：北海道東部は2002年を上回る。根室海峡は2002年並。

(2) 漁期・漁場：漁期は10～11月が中心。

(3) 魚体：10月は22～24cmが主体。

漁況の経過（2003年5～8月）および見通しについての説明

(1) 資源状態

太平洋海域に来遊するスルメイカは冬季発生系群を主体にし、それに秋季発生系群の一部が含まれると考えられている。太平洋海域における資源水準を漁獲量の動向から推測すると、1970～1980年代の低水準期から、1989年以降、増加に転じ、最近10年間では1996年（漁獲量：276,249ト）が最も資源水準の高い年となった。近年の資源水準も年により増減は見られるが、1992年以降は中位～高位水準で推移していると考えられる。

(2) 関連調査結果

- ・ 第2次漁場一斉調査(道県水産試験場・水産研究所、8月下旬～9月中旬)および関連いか釣り調査(8月下旬～9月中旬)

いか釣り機による漁獲試験結果によると、三陸～北海道東部海域までの各沿岸域を中心にスルメイカの漁獲が認められ、特に襟裳岬西部と北海道東部近海で高いCPUE(釣り機1台1時間当たり漁獲尾数)を示す調査地点が多かった。2002年との比較では、襟裳岬周辺～北海道東部海域にかけてのCPUEの増加と津軽海峡東部でのCPUEの減少が特徴であった。この調査結果から算出した三陸・北海道太平洋海域での平均CPUEは3.70尾であり、2002年の2.79尾の133%に増加したが、2001年(CPUE:6.53尾)の57%であった。また、過去10年平均比では78%となった。

(3) 2003年の各海域の漁況経過(主に8月末まで)

2003年6～8月の高知県以北太平洋側主要港でのスルメイカ漁獲量(釣り、定置網、底びき網等;生鮮)は29,171トであり、2002年(27,893ト)をやや上回り、最近5年平均比でも121%となった。以下に海域ごとに述べる。

- ・ 房総以西海域：高知県での釣りによる6～8月の漁獲量は138トであり、2002年(135ト)並であったが、CPUE(1日1隻当たり漁獲量)は2002年の79%に減少した。和歌山県での釣りによる6～8月の漁獲量は58トであり、2002年(141ト)の41%に減少した。CPUEも2003年は2002年の62%に減少した。三重県での釣りとまき網による6～8月の漁獲量は199トであり、2002年(154ト)を上回ったが、釣りのCPUEは2002年の72%に減少した。静岡県での釣りによる6～8月の漁獲量は58トで、2002年(59ト)並であり、CPUEも2002年とほぼ同じ水準であった。神奈川県での釣りと定置網による6～8月の漁獲量は7トであり、2002年(3ト)を上回った。釣りのCPUEも2002年の138%に増加した。千葉県での釣りと定置網による6～8月の漁獲量は36トであり、2002年(46ト)を下回ったが、釣りのCPUEは2002年並であった。
- ・ 常磐海域：茨城県での沖合底曳網および小型底曳網による5～6月の漁獲量は90トであり、2002年(54ト)を大きく上回り、沖合底曳網CPUEも2002年の173%に増加した。福島県での釣りおよび底曳網による6～8月の漁獲量は74トであり、2002年(49ト)を上回り、CPUEも釣りで110%、沖合底曳網で177%にそれぞれ増加した。
- ・ 三陸海域：宮城県での釣りによる6～8月の漁獲量は925トであり、2002年(1,353

ト) を下回り、CPUE も 2002 年の 78 % に減少した。一方、底曳網による 6 ～ 8 月の漁獲量は 3,131 トであり、2002 年 (1,209 ト) を大きく上回り、CPUE も 2002 年の 241 % に増加した。岩手県での釣りによる 6 ～ 8 月の漁獲量は 1,481 トであり、2002 年 (1,102 ト) を上回り、CPUE も 2002 年の 121 % に増加した。定置網による 6 ～ 8 月の漁獲量は 2,317 トであり、2002 年 (408 ト) を大きく上回った。青森県白糠及び八戸近海の釣りによる 6 ～ 8 月の漁獲量は 2,344 トであり、2002 年 (2,732 ト) を下回り、CPUE も 2002 年の 81 % に減少した。まき網による 6 ～ 8 月の漁獲量は 7,315 トであり、2002 年 (8,026 ト) をやや下回った。

- ・大畑～北海道南部海域：大畑近海での釣りによる 6 ～ 8 月の漁獲量は 956 トであり、2002 年 (1,458 ト) を下回り、CPUE も 2002 年の 95 % に減少した。渡島地区沿岸における釣り及び定置網による 6 ～ 8 月の漁獲量は 7,580 トで、2002 年 (9,240 ト) を下回った。同地区函館港における釣りによる 6 ～ 8 月の CPUE は 2002 年の 72 % に減少した。日高沿岸域における釣りとは定置網による漁獲量は 513 トであり、2002 年 (1,012 ト) を大きく下回ったが、浦河港における釣りの CPUE は 123 % に増加した。
- ・北海道東部海域：2003 年も昨年に引き続き、沖合域のスルメイカの北上回遊の遅れ、襟裳岬西部漁場の好漁による漁船の移動等により、道東周辺海域の漁場形成は遅れた。道東近海での釣りによる 7 ～ 8 月の漁獲量は 110 トであり、2002 年 (92 ト) 並であった。釧路港における釣りの 7 ～ 8 月の CPUE は 2002 年の 20 % に減少したが、9 月に入り漁獲量、CPUE とも増加している。9 月 1 ～ 20 日までの釣りの CPUE は 1,599 (kg/隻) であり、2002 年同期 (1,198kg/隻) を上回った。
- ・根室海峡周辺海域：羅臼近海における釣りおよび定置網等による 7 ～ 8 月の漁獲量は 127 トで、2002 年 (0 ト) を上回ったが、9 月に入って漁獲は低迷している。9 月 1 ～ 20 日までの釣りの CPUE は過去 2 年と比較して最も低い。

(4) 魚体の大きさ

- ・ 8 月下旬～ 9 月中旬の漁場一斉調査 (いか釣り) およびその他のいか釣り調査で漁獲されたスルメイカの全調査地点での外套背長組成は、19 ～ 21cm 主体でモードが 20cm の単峰型の組成であった。2002 年同期の調査結果は 21 ～ 23cm 主体でモードが 22cm であり、2003 年は全体的に 2cm 小さくなっていた。海域別では三陸海域が 21 ～ 23cm 主体でモード 22cm (2002 年：20 ～ 23cm 主体でモード 23cm)、下北半島～襟裳岬以西が 20 ～ 21cm 主体でモード 21cm (2002 年：20 ～ 24cm 主体でモード 22cm)、襟裳岬以东が 18 ～ 20cm 主体でモード 19cm (2002 年：19 ～ 24cm 主体で

モード21cm)であった。

(5) 今後の見通しの説明

- ・大畑～北海道南部および北海道東部～根室海峡周辺海域の2002年10～12月の漁獲量は2001年同期より大きく減少した。これは、主に北海道東部を中心とする親潮周辺海域での来遊量減少が主因であり、沿岸親潮の勢力が強勢であったことがその原因の一つとして考えられる。しかし、2003年に北海道東部海域に来遊したスルメイカは、各調査結果および9月中旬までの漁況情報から昨年を上回る水準と推測される。道東～根室海峡周辺海域の漁場形成に大きな影響を及ぼすと考えられる親潮第1分枝は今後も強勢に推移すると予測されるため、これら周辺海域の漁期は2002年と同様に平年よりも短くなると予測される。根室海峡周辺海域で実施された漁獲試験結果と9月中旬までの羅臼周辺のいか釣りCPUEの推移から、根室海峡周辺海域におけるスルメイカの資源水準は2002年並の低水準と推測される。
- ・大畑～北海道南部の漁況は北海道東部海域からの南下群の動向と関連が深く、この南下群は津軽暖水の勢力減少にともなう水温の低下とともに北海道南部以南の海域に来遊すると考えられる。2003年の襟裳岬周辺海域以東の北海道東部沿岸域の来遊群は昨年を上回る水準と予測されるため、大畑～北海道南部海域に来遊する資源水準も2002年より高いと推測される。
- ・常磐～三陸海域の2002年10～12月の漁獲量は2001年より大きく増加し、また過去5年比でも190%と高い値を示した。これは、道東方面の漁獲量減少をもたらした親潮の影響による回遊状況の変化によるものと考えられる。2003年の来遊状況は2002年とは異なり、北上は平年よりも遅かったが、北海道太平洋沿岸に昨年を上回る水準の来遊が認められ、三陸海域にスルメイカの分布が集中した2002年とは状況が異なっている。そのため、三陸海域の来遊水準は昨を下回ると推測される。
- ・海域別の外套背長組成を比較すると、三陸海域では2003年のモードが1cm小型であったが、全体的には2002年と似た組成を示し、昨年とほぼ同じ魚体のスルメイカが漁獲されると考えられる。一方、津軽海峡以北海域では2002年同期より1～2cmモードが小さくなっていた。そのため、2003年11月の漁獲主体の外套背長は、これら海域では2002年より1～2cm小さくなると推定される。